

R7 オートポリス (大分県)

エントリー台数 30台
観客動員数(土・日合計) 6,435人

10/5(土) 晴れ 公式予選 レース1 12位(タイム:1'49"637) レース2 13位(タイム:1'49"838)

合計獲得ポイント **38P**
ポイントランキング **18位**

10/5(土) 晴れ 決勝レース レース1(20周) 16位

10/6(日) 晴れ 決勝レース レース2(20周) 13位

■ ケガからの復帰戦となったオートポリスラウンド

7月末の鈴鹿8耐での転倒で右肺に重篤なダメージを負い、右鎖骨と肋骨も骨折していた生形。8月中旬に鎖骨の固定手術を行い、以来、9月25・26日の第7戦オートポリスに向けた事前テストが1000ccのマシンでの2ヶ月ぶりの走行となった。スプリントレースに関しては5月のSUGOラウンド以来となるためマシンの仕様も変わっており、セットを見直しながらペースを上げていった。思いのほか痛みはなかったが、20週のレースとなるとフィジカル的には厳しいレースになることが予想された。

レースウィーク初日。前日の雨で1本目は中途半端なコンディション。2本目は雨上がりの影響かドライで走行はできたが、コンディションがテスト時とは変わっていた。今回は土曜日に公式予選とレース1、日曜日にレース2が行われるスケジュール。仕様変更した部分を確認し最終戦鈴鹿を見据えてマシン作りをして行った。

<予選>土曜日の公式予選は、ベストタイムでレース1の、セカンドタイムでレース2のグリッドが決まるため、35分のセッション内で全力でのアタックを2周以上しなければならない。セッション終盤にニュータイヤを履き、アタックに入ると自己ベストに近いタイムをマーク。レース1は12番手、レース2は13番手グリッドに着けた。

<決勝レース1>どれだけ走れるかフィジカル面に不安があったものの、スタートを決めた生形は序盤の混戦の中ペースを上げていき、11番手につけていた。しかしレース終盤になるとマシンのにも体力的にも厳しい状況になってしまう。

<決勝レース2>レース1の反省を生かしレース2に向けてマシンをアジャスト。またも好スタートを決めると、オープニングラップは11番手。さらにポジションを上げトップ10に入ってきていた。マシンもレース1よりはいい状態となっており、ペース配分も冷静に考えることができていた。レース終盤に2台にかかわされるものの13位と、レース1よりも3つ順位を上げてチェッカーフラッグを受けたのだった。



<生形秀之 コメント>

「今年は2度の怪我を負ってしまったことで皆様にはご心配をおかけして申し訳ありません。ようやく復帰できましたが、フィジカル的にはまだまだ足りない状況であった今回のレースは、想像通り厳しいものでした。そんな中もがき、何とかしようとした結果なのでしっかり受けとめたいと思います。しかし、マシンに関しては徐々にまとまってきました。僕自身も次の鈴鹿にはベストで臨めると思います。しっかりトレーニングをこなし、次の最終戦鈴鹿は思いっきり走り、皆様に喜んで頂けるような結果を出していきます。応援宜しくお願いします」

SPONSOR

